

## おすすめの抱き方バリエーション

### ■足をに入れて抱く

#### たて抱き

新生児で基本の抱き方をすると、そって飛び出しそうになるときは右図の抱き方を試してください。

たて抱き



新生児はこのままの姿勢で入れてあげましょう。

#### ななめ抱き

おっぱいスタイルでななめに(1~4か月頃の赤ちゃんに)。

ななめ抱き



#### 寄り添い抱き

お母さんとおなかを合わせて(首がすわった頃から)。

寄り添い抱き



#### カンガルー抱き

外側を向いて(首がすわった頃から)。

カンガルー抱き



### ■足を出して抱く

#### 腰いす抱き

ひざはおしりより高い位置に、内レールはひざ裏にかけます。歩けるようになったら内レールから足を出してだっこすることもできます。足を出すときには必ず、お母さんの腰骨にまたがせましょう。下図の×印のような足になりにくく安全です。(つかまり立ちをするようになった頃から)



腰いす抱き

#### ご注意!

足をだっこするときには、ひざがしっかりまがって、お尻より上に上がっていること。

※ひざが伸びると、赤ちゃんの背骨や骨盤の成長や発達に、よくありません。

※ひざがお尻より下がっていると、抜け落ちる危険があります。



## 正しい“背骨育て”で、上手に子育て!

### 1. 胎児期

すこやかなお母さんの子宮内では、赤ちゃんの背骨はC型。これが通称「Cカーブ」です。



### 2. 新生児期

かたい布団にあお向けでは、背骨が無理に伸ばされ、頭も左右どちらかに。寝ている時も抱っこ時も「Cカーブ」が大切です。



### 3. 首がすわるころ

首の骨に前カーブができて、首がすわりまします。まっすぐの背骨だと、首の前カーブも弱く、「Cカーブ」を保つことで、しっかりとした前カーブができます。



### 4. 歩き始め~小学校卒業

腰の骨(腰椎)に前カーブができ、背骨全体のS字状に。しっかりした「S字状カーブ」もまた「Cカーブ」を保つことで作られるのです。



#### <洗濯時の注意>

※洗濯ネットをご使用ください。

※漂白剤の使用、乾燥機や暖房器具・アイロンを使った乾燥はしないでください。

※直射日光を避け、陰干ししてください。



注意 | メッシュ素材の性質上、アクセサリなどの引っかかりに十分ご注意ください。

まるまるだっこでらくらく育児! 赤ちゃんにっこり、すやすや。

# ベビハグスリング

赤ちゃんをじょうぶで器用な子どもに育てる“まるまる育児”

赤ちゃんが心地よく眠ることは、脳を育て全身の発達を促し、ママや家族の疲れを癒すためにも大切です。

生まれてすぐから“まるまるねんね”を!

- すやすや眠る、機嫌のいい赤ちゃん
- 手先が器用になって脳にもいい刺激がいっぱい
- でんぐり返し、ボール投げ、平泳ぎも上手に



[対象] 新生児~3歳頃

[寸法] 約160×60cm

[使用素材] メッシュ: 綿・ポリエステル



### お母さんの体の負担を減らす

ベビハグスリングならお母さんの腕の代わりに肩や背中全体で赤ちゃんの体重を支えるから、体の負担が少なくなります。また、赤ちゃんの股で支えてぶら下げるスタイルではなく、お母さんの腕でだっこされるのと同じ形、同じ位置でだっこできます。



### ベビハグスリングは特別仕立て

お母さんと赤ちゃんの体格にかかわらず、ほしいところにもいつもクッションがあるので正しい姿勢でだっこをすることができます。立体裁断と特殊縫製で微調整も簡単です。また、丈夫ですべりのよい生地を使用しています。商品テスト100kgの荷重に耐える丈夫さで安心です。



### 赤ちゃんの背骨の丸みを守る!

人間が二本足でバランスよく歩けるのは、横から見た背骨がS字状カーブを持っているから。でも、生まれたばかりの赤ちゃんの背骨はひとつのまるいC型。この背骨の丸みをしっかり保つことで、首がすわるまでにしっかりと首の前カーブが、よちよち歩きを始める頃にはしっかりと腰の前カーブができ、きれいなS字状の背骨の基礎が作られるのです。

※詳しくは裏面をごらんください。

※商品の交換・返品は、購入先にお問い合わせください。



骨盤ケアとマタニティ&ベビーケア用品

トコちゃんベルトの青葉

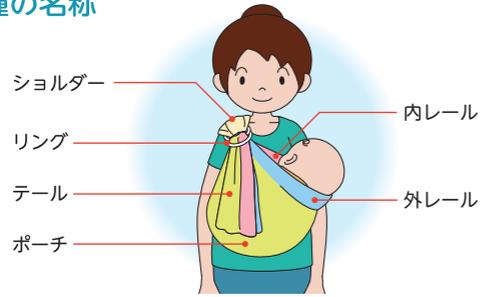
有限会社 青葉 <http://toco-chan.jp>  
〒578-0984 大阪府東大阪市菱江4丁目6-1  
TEL.072-960-0507 FAX.072-960-0508



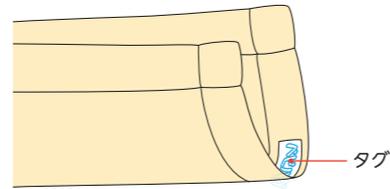
袋PE

# セッティング方法

## ■各種の名称

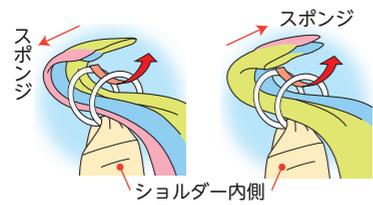


## ①テールを二つ折りにする



タグを内側にして、スポンジを重ねるように二つ折りにします。

## ②スリングを肩にかける

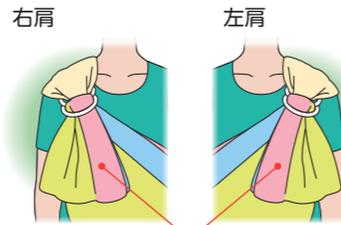


テールをリングに通します。



テールが前にくるようになめ掛けにします。

左手で抱くときはショルダーを右肩に(左手から通す)



スポンジが胸側になるように

## ③ポーチの深さを整える



両手を入れてポーチの底を広げたとき、おへその高さくらいになるように調整します。

高すぎるとき



リングを持ってポーチを引っ張る

低すぎるとき



リングを持ってテールを引っ張る

## ④内レールを体にフィット

上側のテールを引っ張って内レールをからだに密着させます。外レールは前に下げておきます。



## ⑤リングの位置を整える

抱いているうちにリングが下がりがちになります。はじめは高めにセッティングしましょう。

鎖骨の位置



抱く前のセッティング位置



抱いているときのセッティング位置

## ■ポイント

テールを引く場所によって、レールやポーチそれぞれの場所が調整できます。



## ■ポイント

肩にかかるようにしっかり広げます。

ショルダーの位置



背中の布がねじれたり細くよれてしまわないように広げます。



# 基本の抱き方 (よこ抱き)

## ①赤ちゃんを丸くする



両手で赤ちゃんを抱き、赤ちゃんの体がやわらかくなるまで、ゆっくりとスクワットしてください。



新生児のよい足の形

生後6~10カ月のよい足の形

## ■ポイント



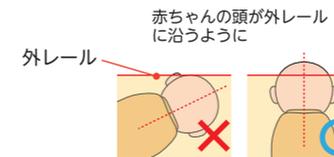
赤ちゃんを「おひなまき」と「マイピーロネオ」で丸くしてあげます。首が支えられ丸い姿勢になるので抱きやすくなります。

## ②赤ちゃんを片手で抱っこし、スリングを着せる



赤ちゃんの頭が足より下にならないように

外レールを持ち上げるようにスリングを着せます。ポーチと赤ちゃんのお尻や背中に隙間ができないように、外レールをしっかり引き上げます。



## ③腕を抜く



しっかり外レールを持って、スリングで赤ちゃんの体重を支えながら腕を抜きます。

## ④スリングをフィット

ゆるみやたるみをテール側に寄せて行き、最後にテールを引いて、赤ちゃんにフィットさせます。



引っばりたい位置をギュッと強く握って、少し持ち上げるように引っばる。

## ■ポイント

ひざやクッションで赤ちゃんの体を支えると着用しやすくなります。



片足を椅子などに乗せて

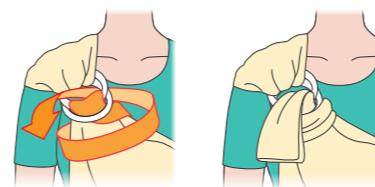


腰かけてひざにクッション

## ⑤余ったテールを整える

### 方法1

巻きつけてリングに通します。



### 方法2

ねじってリングの上に挟みます。

